第４回審議会での主な意見の概要

１　基本構想（素案）からの主な変更点について

⑴ 都市像

① 基本構想（素案）を見直し、「都市像に掲げる“豊かさ”」が追加され、「心の豊かさ」、「都市の豊かさ」及び「自然の豊かさ」が具体的に記載されており、ずいぶん分かりやすくなったと思う。

２　基本目標について

⑴ 市民と行政が拓く　協働と連携のまち

① 「市民の目線に立った施策と市民主体のまちづくりを展開します」と書いてあるが、誰が責任をしっかり持つかということを明確にしておかないといけない。

⑵ 水と緑が輝く　人と地球にやさしいまち

① 「３Ｒ」をさらにもう一歩進めて、４つ目の「Ｒ」（リフューズ※）を加えた「４Ｒ」という考えが必要。※リフューズ：断る

② 「うるおい空間の創出」に、「身近な公園・広場の創出・拡充」とあるが、鹿児島市は既に多くの緑があふれており、公園や広場もたくさんある。まずは既存のものを生かすということを考えていく必要があるのではと思う。

⑶ 人が行き交う　魅力とにぎわいあふれるまち

① 観光客のために魅力あるまちにしていくという部分がとても強いと感じられるが、次世代を担うのは私たち若い世代であり、市民が楽しいと思えるまちをつくっていくことが大切。

② 鹿児島を良くするためには経済も本当に発展していいかなくてはならない。雇用を充実していく考えが必要である。

⑷ 健やかに暮らせる　安全で安心なまち

① 「高齢者や障害者をはじめとする」の「障害者」という表現について「障がい者」と表記している他のケースも最近増えていると思うが、検討した上で決めていったら良いのでは。

② 「病児・病後児保育事業の実施」について、「鹿児島に生まれて良かった、鹿児島だったから私は大切に育てられてきた」と思う子どもたちを育てようと思ったら、病後児保育の施設を増やすのではなくて、病気の子どもがいたら親を休ませてあげなさいと行政が企業にしっかり伝えていくことが必要。

③ 「元気高齢者の社会参画の促進」について、ボランティア活動などいろんな年齢の人たちが参加するものに、多くの高齢者も参加しているのではないかと思うので、それを念頭に置いて主な指標を検討してはどうか。

④ 3.11 の震災を踏まえ市がどのように対応するかということについては、かなり真剣に考えたほうが良い。災害対策については重点的に今後 5 年間行うとか、電力のあり方を集中的に考えてみるとか。こういうことは市民の立場からはしてほしいことではないかと思う。

⑤ 今回の大震災を教訓にして、災害を最大限少なくするための防止と、災害後の避難所のあり方や場所、寒い時期や暑い時期の状況はどうかなども考えなくてはならないし、避難所への避難誘導や行政を中心とした職員配置や日常の訓練などについても考えるべき。

⑸ 学ぶよろこびが広がる　誇りあるまち

① 子どもを取り巻く環境変化として「ネット社会の進展」を踏まえるべき。今後 10 年、もっとネット社会は広がっていくと思うので、危惧されるものも含めて。

② 「学ぶよろこびが広がる　誇りあるまち」に、「子供たちが本当に鹿児島で学んで良かった、就職できて良かった」というような「本当に子供たちが安心して鹿児島で働ける」というものが、どこかに盛り込まれれば良い。

⑹ 市民生活を支える　機能性の高い快適なまち

① 市電に関し、中央駅から天文館の間の市電利用についての観光客向けの案内のあり方を含め、単に市民の足ではない、観光客や外国の方にとっての市電の魅力をどのようにこの中に盛り込むのかを考えていく必要がある。

⑺ その他（全般）

① 過去の延長線上の議論ではなく、10 年後の鹿児島のあり方を先取りするような目標が必要。

② 3.11 の大震災で日本人の価値観がものすごく変わり始めている。世の中のものの見方が変わり始めているのでそれを織り込むことが必要。

③ 鹿児島市全体が、ここに掲げることをどれほど本気でやるつもりで内外にコミットするのか、そのことをどう打ち出すのかということが重要。

④ 全体として、次世代へのコミットメントは何か、現世代の大人は何を次世代に約束していくのか。そういったことがこの計画の中に反映されることが必要。

⑤ この 6 つの基本目標で言っていることは、実際どんな原理原則を持たないと実現できないのかという部分をつくって、みんなで共有することが大切である。

⑥ まちの活力・経済をどう強化していくのか、鹿児島のような自然環境の中でどのような地域経済をつくっていくのか、そのモデルを 10 年かけてつくってほしい。

⑦ 今度の震災で人と人との絆ということが重要視されたが、幸いこの計画案にはそういうことが入っているので、市民一人ひとりの自立性と助け合う心、人と人との絆というところがあって、そこから環境も大切であるとして、産業の主たるテーマとして、環境、自然の美しさを観光の中に生かす、そしてその成果で市民生活を支えるということになるのではないか。

⑧ 6 つの目標は 10 年経っても使える言葉の塊であり、それは最上段に置いておき、その下の部分をもっと時代に即したものに変化させ、具体性を持たせていくことで計画を進めていくというので良いのでは。ただ、その中でも、「低炭素社会」など一つひとつの言葉の定義について、もっと深く語っていくべき。

⑨ 基本計画の「目標指標」について

ア 「このようなまちを目指します」の、例えば「地球温暖化対策が進んでいると感じる市民の割合」の部分について、アンケートで目標を設定しようということだと思うが、もっと具体的なもの、どういう指標を持って市が進めていくのかという考えが示されれば、市民がそれにどう関与するかということが出てくるのではないか。

イ 鹿児島市と似たような都市との比較を行うことで、市民アンケートでは成果が出ていても足りない、もっと効率よく成果を出していかなければならないというものも出てくるのではないか。